

日本新聞協会がNIE（教育に新聞を）運動に着手したのが一九八五年。NIEに関する国内外の調査研究を経て、NIEパイロット計画として教師が教室で新聞を活用する実践が実質的にスタートしたのが一九八九年。早いもので今年で二十年が経過しました。その間、学校で、主として社会科、国語科を中心に、教科や領域分野で実践されてきました。公開授業や実践発表も行われ、その様子が新聞各紙にしばしば掲載されることもあって、NIEの内容や実践方法がかなり明確になってきました。

二十年前にNIEの草分けとしていち早く取り組んだ教師たちも、今日では学校でのNIEの先導者として活躍しています。また中には、学校を退職して新聞社の一員としてNIE活動に参画したり、地域で子どもの教育にNIEを取り入れて活動したりする人も出てきました。

さらにすばらしいことは、NIEを研究・推進する組織が充実してきたことです。日本新聞教育文化財団を核に、全国四十四都道府県にNIE推進協議会や研究会が設立され、NIEの研究や推進に努めています。二〇〇四年十月には念願の日本NIE学会も設立されました。世界のNIE実施国を見ても、日本のように組織的に充実している国はないと思います。

しかし今後の課題は、それぞれの組織の連携とNIEの中味の充実にあるのではないのでしょうか。(1) NIEの本質的意義や目標をどう確立するか。(2) NIE実践ノウハウをどう周知徹底するか。(3) 文部科学省の更なる協力をどう得るか。これらの三点は特に重要です。

NIE運動の最大の悩みは、なんといっても実践者の数がなかなか増えないことです。理由はいろいろあるようです。(1) 教科書をしっかり教えることに手一杯で、余分なことをする余裕がない。(2) 新聞は小・中学生にとつて難解である。(3) 新聞活用のノウハウがよくわからない。こうした声がいまだに聞かれ、残念です。これは新しくNIEに取り組む教師への対応の不十分さが、新聞界やNIEの推進組織側にあることから出てくる声なのかもしれません。同時に、教育行政側の消極的姿勢にも原因があるのかもしれない。そのこともあって、私は日本新聞協会のNIEコーディネーターの経験を生かして、NIEに関する基礎的なガイドブックをいろいろと出版してきました。『NIE実践ヒント・ワークシート集』(00年10月)、『NIEワークシート100例』(03年3月)、『NIEの20年』(04年5月)、『新聞を知る新聞で学ぶ』(共著、06年3月、いずれも晩成書房) などですが、NIEの理解を深め、実践に役立ててもらいたいという願いからのものです。

幸い二〇一一年度から小学校で、一・二年度から中学校で実施される新学習指導要領には「新聞」という言葉が多く入りました。これは取りも直さず今日までNIEが積み上げてきた成果で、今後のNIE運動に迪を開くものと期待しています。

本書では、長年NIEを実践してきているベテランの教師に、実践を通して体得されたNIEの理念・目的・効果と、それぞれの「NIE」論を展開していただきました。現在NIEを実践している教師や、新たにNIEを志す教師の参考になり、多くの示唆を与えてくれるものと確信しています。執筆陣には日本NIE研究会(会長・妹尾彰)と大阪NIE推進協議会の、ベテラン実践者に参加していただきました。その関係で私と枝元一三氏(日本新聞教育文化財団・NIEコーディネーター、日本NIE学会運営委員長)が編集に当たりました。

NIEの教育的な効果は、日本新聞教育文化財団による「NIE効果測定調査」などに見られるように、「効果あり」が教育界・新聞界の共通認識になってきています。それだけに多くの教師にNIEを実践していただきたいと思っております。その際には優れた実践から多くを学ぶ必要があり、本書はそれに充分応えられるものと確信しております。